

2020年10月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 10 月えんだより

10 月の聖句 『いかに楽しいことでしょうか 主に感謝をささげることは』

<詩編 92 編 2>

酷暑の日々が過ぎ去り、急に秋が訪れました。10 月に入り、朝晩の気候の涼しさに、喜びさえ感じています。今年は感染症や酷暑で、外での遊びも十分ではなかった分、秋は身体を思いきり使って遊びたいですね。

さて、今年度は、未曾有の災禍の中で始まり半年が過ぎました。当然有るものが無い生活や突然無くなった日常へ変化して行くことへの不安の中で、それまでの当たり前の日常が、何と有難いことかと感謝をしたことはなかったでしょうか？「感謝」といいますと、キリスト教では、神さまに感謝をする意味ですが、常に信頼する、常に感謝の思いを持ち続けていますか？と聞かれますと、反省しなければなりません。感謝の思いは、後悔の念ではなく、率直に自分の心を認め、不可避的なことには、赦しを求めて改心することが、感謝する喜びへとつながっていきます。

命、魂、空気、心、思い、愛...の他、世には目には見えませんが、存在するものがあります。私達は可視化できないものを重視した豊かな価値観を持っていましたが、今は可視化できるものを重視することが大勢を占めていると思います。例えば、食べることは、命の移し変えであるという本質が忘れられ、より利便性の高いものや嗜好品が好まれます。病気も目に見える患部が治療され、病気を生み出してしまった心までは治すことには目がいきません。子ども達が、互いの意見や感情をぶつけ合い学んでいくのですが、その事象には目はいくのですが、なぜこうなるのか？と、その背景までは行き届かないのではないのでしょうか。しかし、こうした不可視的なことが、最も大切なのではないかと思えるのです。人が美しいと感じるのは、その人がたくさんの苦しさ、喜び、悲しみの経験を積んできたから。自然が美しいのは、全てのものが命をもって調和して生きているから。手作りが美味しいのは、作った人の思いや愛情がこもっているから。故郷が美しいのは、昔の懐かしい思い出がつまっているからと想像すれば、今の自分が存在することや、今日受けた恵みが、真の幸福となることができるかとも思えるのです。「感謝と賛美は私たちの努めです」この言葉を忘れないようにしたいと思います。

年主題聖句 「喜びと平和とであなたがたを満たす」

<ローマの信徒への手紙 15 章 13 節>

10 月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	やってみよう	ふれあう
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 季節の移り変わりを感じ、身近な自然とであう。 * 体を動かす遊びを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> * 神さまが与えてくださっている力を出し合い、共に取り組む。 * 疑問や気付いたことを調べたり、考えたりする。 * 友だちと遊ぶ中で、いろいろな方法に挑戦し、失敗を重ねながら試す。
讃美歌	わたしたちのたべるもの こども改 102	